

教材名 「形をしらべよう」

目 標

- ・動物を直線で囲む操作を通して三角形、四角形の定義を知り、形について調べようとする態度を育てる。
- ・三角形と四角形の弁別と点構成ができる。

コンピュータを活用する利点

教科書の中で、教師が目立たせたい教科書のページや部分をなかなか見つけることができない児童がいる。発達障害あるいはグレーゾーンと言われる児童にとって、多くの情報の中から必要とする情報を取り出すことは困難を伴うことが多い。スクリーンに教科書と同じ場面を提示し、それを見ながら指導をすることにより、「学習のバリア」を少なくすることができる。特に、本教材では「形」という目で見て判断することの多い学習であるため、情報機器を使って視覚的に情報を伝えることは、児童の理解を助けることになる。

本授業では、カナダ製のスマートボードを使用した。スクリーンを指で押さえながら画面を変えたり、文字を書き込んだりすることができるので、児童の顔を見ながら分かりやすい授業をすることが可能である。

授業の流れ

ICT活用場面

なんという動物がいますか。

動物を線のオリで囲もう。

できた形を、2つの仲間に分けよう。

三角形と四角形とは、何ですか。

図の中から三角形と四角形を見つけよう。

点と点を直線でつないで、三角形や四角形を作ろう。

はじめに動物の絵を提示する。教科書と全く同じ絵なので、児童は混乱することがなかった。

「動物が逃げ出しました。早くオリに閉じこめないと、大変なことになります」と言って場面を設定した後、点と点を直線で結んで閉じこめた。児童の目の前で直線を書き入れるので、分かりやすく、間違っていた児童も容易に修正することができた。

できた形を2つの仲間に分ける場合も、具体的な場面がスクリーンに示されているので、比べるのが容易にできていた。

続いて、たくさんの図形の中から三角形と四角形を探し出す学習に入った。3本や4本の線で「完全に囲まれていない」形や直線の「一部が曲がっている」図形が除かれることも一目で分かるように示すことができた。

最後に三角形や四角形を作る学習でも、「教科書にこのようかけばよい」という例示ができるため、理解に時間がかかる児童の学習を援助することができた。



成果と課題

視覚に訴える授業であるため、児童の興味関心が持続し、分かりやすい授業をすることができた。教科書とスクリーンが常に対応していることで、児童の学習を安定させることができた。課題としては、よく晴れた日には、スマートボードの画面が薄くなってしまいうため、照度の高いプロジェクターを用意することである。

ICT活用環境等

使用周辺機器	スマートボード、プロジェクター
使用ソフト名	スマートノートブック 9.1
使用教室	普通教室

